



3年ぶりの「博多どんたく港まつり」

～今回の取組みの振り返り～



令和4年6月

福岡市民の祭り振興会

【目次】

	頁
ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. どんたくの概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2. 今回の開催に関する検討の経緯・・・・・・・・	3
3. コロナ感染症対策～主な取組み～・・・・・・・・	5
4. 沿道の模様・・・・・・・・・・・・・・・・	7
5. どんたく関連の新聞記事・・・・・・・・	8
6. コロナの感染状況の推移・・・・・・・・	10
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・	12



福岡市民の祭り振興会
会長 谷川 浩道

ご挨拶

国内では、ゼロコロナを志向する新型コロナウイルス感染防止対策のもと、この2年余は大半の行事が中止となり、経済活動をはじめとする諸活動が低調なまま推移しました。

今年に入り、コロナで重症化する患者が大幅に減少する中でも、行政からの要請の有無に関わらず活動自粛を続ける企業・団体・個人が依然多かったことから、私は、経済活動はもとより、文化、教育、福祉など様々な活動がこれ以上停滞することは是が非でも避けなければならないと思うようになりました。そして、街がコロナ前の元気を取り戻すために、何らかの活路を見出したいと考えました。そこで、本冊子に記載した取組みにより、例年の半分未満の規模ではありましたが、実に3年ぶりとなる第61回福岡市民の祭り「博多どんたく港まつり」を挙行することといたしました。

私どもは「祭りがなければ博多ではない。」という強い想いのもと、関係者全員で力を合わせ、祭りを成功裡に実施することができました。そして、私どもの熱い想いを市民の皆様と共有できたことが今回の何よりの成果であったと感じております。

市民の皆様には祭りを心から楽しんでいただきました。経済効果も相当のものがあつたようで、世の中に元気が戻ってきつつあることを強く実感しております。

福岡市には、例年、5月の「博多どんたく港まつり」、7月の「博多祇園山笠」、9月の「管崎宮放生会」というように、季節に応じて様々な祭りがあります。今回の祭りの成功が連鎖的にこれらの祭りの実施につながり、さらには全国的にも祭りやイベントの再開につながっていけば、私どもとしてはこれほど嬉しいことはありません。

最後に、昨今のともすれば萎縮しがちな世の中に、大いなる元気と活力を与えることができる祭りは、いずれの地域においても経済・社会・文化活動の“起爆剤”になりえます。全国各地の祭り主催者の皆様が、本冊子を参考に、それぞれの地域の実情に応じた工夫のもとに祭りを復活・実施し、それぞれの街に元気と笑顔を取り戻されることを心より祈念いたします。

令和4年6月

1. どんたくの概要

「博多どんたく」は、治承3年（1179）に始まった「博多松囃子」を起源とする843年間にわたる伝統行事である。

明治時代初期に一時中止になるも、明治12年（1879）に「博多どんたく」と名前を変えて再開された。太平洋戦争中には再び中断されたが、戦後まもなく再開。昭和37年（1962）には、市民総参加の「福岡市民の祭り『博多どんたく港まつり』」となり、現在に至る。ゴールデンウィーク期間中における、日本で最大規模の祭りである。

名	称	: 福岡市民の祭り「博多どんたく港まつり」（以下「どんたく」という。）
主	催	者: 福岡市民の祭り振興会（以下「振興会」という。事務局：福岡商工会議所、福岡市、公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー）
期	日	: 5月3日・4日
会	場	: 福岡市内一円
例年の規模		: 参加団体 約650、出演者 約3万5千人、見物客 約200万人（2日間）
主な行事		: 前夜祭、博多松囃子、どんたく広場でのパレード、演舞台での芸能披露、花自動車の運行

▼例年のどんたくの様子



▲博多松囃子



▲花自動車



▲踊りの行列



▲マーチングパレード隊



▲演舞台



▲観覧席

今回（第61回）のどんたくの規模（実績）

▼参加団体数・人数

	パレード(どんたく広場)		演舞台		合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
5月3日	61	5,572人	136	2,379人	197	7,951人
5月4日	42	2,934人	116	2,125人	158	5,059人
合計	103	8,506人	252	4,504人	355	13,010人

▼人出

	第61回（2022年）	第58回（2019年）
5月3日	40万人（どんたく広場25万人）	120万人（どんたく広場60万人）
5月4日	40万人（" 25万人）	120万人（" 60万人）
合計	80万人（" 50万人）	240万人（" 120万人）

2. 今回の開催に関する検討の経緯

新型コロナウイルス（以下「コロナ」という。）の感染拡大に伴い、残念ながら第59回（2020年）は全面中止。第60回（2021年）も、博多松囃子は実施したものの、他の行事はすべて中止せざるをえなかった。

今回（第61回）は、3年ぶりの開催を目指して、振興会事務局が昨年夏に検討を開始した。当時はコロナの第5波の最中であったこともあり、コンパクトな規模で開催するなど可能な限り感染リスクを減らすことを必須条件として検討を進めることとした。

（1）福岡県内のコロナ感染状況

福岡県内では年明け早々から感染が再拡大し、コロナの第6波が到来した。1月20日に県独自の「福岡コロナ警報」が発令され、さらに1月27日には、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、「まん延防止等重点措置」が発動された。

新規陽性者数は2月初旬にピークアウトし、3月6日には同措置が解除された。その翌日の3月7日には県独自の「感染再拡大防止対策期間」が設定され、4月7日に終期を迎えた。

そうしたコロナの感染を巡るあわただしい状況変化の中で、振興会は、総会が開催される3月15日までにどんたく再開の可否について実質的な決断をしなければならなかった。決断に当たっては、（2）に掲げる様々な要因を綿密に検証し、「どんたくを安心安全なものとして実施するためにはいかなる方策をとればよいか。」に全神経を集中した。

（2）決断に当たり考慮した諸要因

①新規陽性者数及び病床使用率の推移

2月中旬以降、新規陽性者数と病床使用率は徐々に落ち着いてきた。とりわけ、一時は86%にのぼった病床使用率が、3月中旬には40%を下回るまでに低下した。すなわち、第6波が収束する傾向が伺えたということである。

②重症化リスクの低減

第4波や第5波に比し、オミクロン株が主体の第6波では、重症者数が明らかに減少した。これは、オミクロン株が従前のデルタ株等に比し、感染力が強くなった反面、重症化リスクが低減したことが原因であると言われている。特に若い世代は、高齢者に比べ重症化しない傾向が顕著であった。

③ワクチン接種の進捗と重症病床使用率

どんたく開催の可否を決する振興会総会の開催日である3月15日の時点では、福岡県全体で第3回目ワクチンの接種率が約3割にすぎなかった。これに対し、どんたく参加者に多い高齢者の接種率は8割を超えていた。また、当時の感染発生源は従来多かった飲食店から、高齢者施設、教育施設、医療機関等に移り変わり、重症化事例は高齢者または基礎疾患の保有者にほぼ限られるようになっていた。高齢者施設については、第3回目接種が100%完了しており、重症病床使用率は深刻化しないものと予想された。

県内の重症病床使用率は、昨年6月を最後に常時20%を下回る状態が続き、第6波では3月初めに9%（19床）を記録したものの、3月中旬以降は5%前後で推移した。

④目立ってきた感染防止対策の弊害

基本的な感染防止対策が定着するのに加え、③で述べたように、感染の発生源も変わってきた。それにも拘らず、感染防止対策は依然、飲食店や宿泊施設に重点が置かれるなどあまり変化が見られず、メリハリを欠いていた。このため、福岡市内で約9割を占める第3次産業の事業者は、経済的な打撃を引き続き受ける一方で、打ち出される措置の感染防止効果をあまり実感できなくなっていた。また、文化活動、福祉活動や学校での教育活動への悪影響が目立つようになっていた。こうしたことに市民の多くが閉塞感を覚えていた。

⑤市民の理解

振興会の谷川浩道会長（福岡商工会議所会頭）は、個別に行った高島宗一郎名誉会長（福岡市長）及び服部誠太郎顧問（福岡県知事）との会談を通して、振興会幹部の「今後withコロナ下では、基礎的な感染防止対策をしっかりと講じたうえで経済活動も推し進めていく。」という考え方に対し十分な理解を得られたとの感触を得た。

また、開催決定の約1週間前に新聞やテレビで3年ぶりの開催が先行報道されたが、それらの報道に対する福岡市民の受け止めも軒並み好意的であった。このことは、どんたくの再開を待ち焦がれる市民の期待感の現れであり、開催決定について最後の一押しとなった。

（3）主催者の強い思い

谷川振興会会長は、様々な活動を止め続けることが市民の各層に与える経済的・社会的・心理的影響や、開催の可否によってもたらされる波及効果などを慎重に考慮したうえで、最終的には「誰かがリスクをとらなければならない。」と、不退転の決意で、3月15日に開催された振興会の総会に臨んだ。そして、「何が何でもやりたい！」と宣言して開催を提案し、振興会名誉会長の高島市長もこれを歓迎する発言を行った。そうやって、全会一致での開催決定にこぎつけた。

3. コロナ感染症対策～主な取組み～

振興会事務局は、2020年に福岡市が作成した「安全安心に配慮したイベントマニュアル」を参考に、翌2021年、「博多どんたく運営マニュアル」を作成。今年に入り、福岡県新型コロナウイルス感染症対策本部の助言を踏まえて改訂版を作成した。



▲当日はパレード等をオンライン配信

また、福岡市がDX化の一環で2021年に開発したシステム「モバイルどんたく」をホームページに搭載。どんたくへの参加手続き、プログラムの作成業務、パレード当日の進捗状況管理など、どんたくに係る一連の手続きをデジタル化した。さらに、参加者自ら動画などの情報を発信できる専用のページを新設し、イベントマップやパレードプログラムなどの観客向け機能と連携させることで、感染症対策に取り組むと同時に、どんたくをより楽しんでいただけるような環境を整えた。

(1) 主要行事の縮小

① どんたくの中でも最も観衆を集めるパレードの開催時間を各日2時間短縮

(例年) 5月3日 13時 ～ 19時 (今年) 5月3日 13時 ～ 17時
5月4日 15時 ～ 20時 5月4日 15時 ～ 18時

② 例年市内各所に設置している演舞台を半数程度に削減

(例年) 33、34ヶ所 (今年) 16ヶ所

③ 参加者数の抑制

各行事を主管する企業・団体に対し、振興会事務局が作成した感染症対策マニュアルを配布。

(2) 参加者への要請

① 「モバイルどんたく」の活用

例年、参加団体の代表者(約400名)を集め実施していた説明会、参加申し込み等の諸手続き、プログラムなどをすべてオンライン化した。

② マスクの常時着用

マスクの着用を原則とする政府の基本方針(5月23日になって一部緩和の方針に転換)や、コロナ禍の中での開催について感染拡大を懸念する声があること及び開催時期の気候では熱中症リスクが低いことを考慮し、マスクの着用を義務化した。

なお、本番では、マーチングバンドの一部(トランペットなどの管楽器奏者)が、マスクに穴を開けて演奏していた。楽器の特性に応じ、演奏時のみマスクをはずしてよいとするなどの配慮が必要であった(反省点1)。



▲永江静加振興会実行委員長(中央)と福岡親善大使(左右)



▲マウスシールドを着用して踊る博多券番(芸妓衆)の皆さん

③衣装に合わせた色彩やデザインのマスクの着用

白いマスクでは祭りの興を削ぐことから、観客に楽しんでもらうために、衣装に合わせた色彩やデザインのマスクを着用するよう要請した（マスクも衣装の一部との考え）。

ただし、振興会事務局内の意思疎通が十分でなかったため、参加者に周知をした時期が4月中旬となってしまう、十分な準備期間を設けることができなかった。このため、参加者の一部が一般の白いマスクを着用してどんたくに参加していた（反省点2）。

④ワクチン接種の推奨、体調の管理・記録及び濃厚接触者等の参加見送り

第3回目ワクチンの接種を推奨。また、どんたくの1週間前から体調管理を徹底するよう求めるとともに、その記録を正確にとっておくよう要請した。そのうえで、コロナの感染者はもとより、濃厚接触者や体調不良の方は参加を見合わせるよう指示した。

本来であれば第3回目のワクチン接種や事前の検査（PCR等）を義務化したかったが、振興会事務局のマンパワーでは管理が困難と判断し、推奨するに留めた。しかし、各団体に管理を任せるのはやむをえないとしても、このいわゆるワクチンパッケージ（第3回目ワクチン接種、直前のPCR検査）を義務化するなど、より強い方策を検討することもありえたと考えられる（反省点3）。

⑤その他

感染予防や感染拡大防止策として、手指消毒の徹底、使用したマスク等の持ち帰りを徹底するよう要請した。また、コロナ接触確認アプリ「COCOA」の利用を推奨した。

（3）沿道での観覧の抑制

①沿道でのパレード観覧の自粛要請

パレードが行われるどんたく広場の沿道には例年、おびただしい数の観衆が押し寄せ、「密」の状態になることから、今回はホームページ等を通じて市民に来場の自粛を要請した。また、オリンピックのように自宅で楽しんでいただけるよう、地元テレビ局にパレードを生中継していただくよう強く要請した（例年は山笠のような生中継ではなく、ニュース番組などで報道）。これを受けて、RKB毎日放送とTNCテレビ西日本がそれぞれ70分間と60分間の特別番組を放送したほか、FBS福岡放送が番組の中で30分間、どんたくの模様を放送した。また、YouTubeでのLIVE配信に取り組み、テープカット等の式典の様子やパレードの様子を複数地点から配信した。

福岡市内のホテルでは、宿泊予約が取れないほどの状況になっていたことから、遠隔地からの訪問者が多数どんたく広場に足を運んだと推測される。呼びかけの手段を地元マスコミやホームページに留めていたため、周知徹底ができていなかった。福岡県内からの来訪者はもとより、県外から来福される方々にも、SNSなども駆使して早い時期から呼びかけを行うべきであった（反省点4）。

②沿道の運営スタッフの確保

沿道の警備、「密」回避のための注意喚起、各種案内などの業務を的確に行うため、沿道の運営スタッフを例年よりも増やした。すなわち、福岡商工会議所の職員約140名では手が回らないことから、どんたく参加企業等にボランティアの派遣を要請したのである。これを受け、企業等から76名のボランティアが派遣された。



▲注意喚起を促すビブスを着たボランティア

(4) 沿道の店舗等への協力要請

パレードの沿道周辺の店舗・事業所や露天商組合に対し、以下の要請を行った。

- ① 敷地の提供、トイレなどの設備提供
- ② 店舗前露店の出店自粛、酒類販売の自粛、高所への立ち入り規制、ゴミ処理

また、祭りを警備する地元の警察に対しては、福岡商工会議所の参与（警察OB）を通じて交通規制の実施、事件・事故の未然防止等きめ細かな警備を要請した。

沿道では、観覧客2名が体調を崩し、医療救護班の介抱を受けたほかは、さしたる事故や混乱はなかった。なお、祭り終了後に、警備に当たった中央警察署と博多警察署に振興会幹部がお礼の挨拶に伺ったところ、警察署幹部からは「無事にどんたくが終わってよかった。実は、無差別に人を殺傷するといったことへの対処にも備えていたが、そうした事件も生ずることなく、警察としての役割をしっかりと果たすことができた。」との声が寄せられた。

4. 沿道の模様

第58回（2019年）



▲例年は様々な露店が並ぶ中洲地区のパレード沿道



▲懐かしいマスクなしの姿



▲5列の隊列

第61回（2022年）



▲主催者からの自粛要請を受け、露店は見られない。沿道では、感染症に対する注意喚起を促すプラカードを掲示



▲出演者は衣装に合わせたマスクを着用



▲隊列を4列に変更し、沿道からの距離を確保

5. どんたく関連の新聞記事

5月3日 毎日新聞

きょうから「どんたく」 オンライン視聴呼びかけ 3年ぶり

福岡市中心部市民参加型の「博多どんたくまつり」が、4日開催される。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりとなる今年、オンライン配信は「博多どんたく」のサニタールは「伝統を継承」とんたくの源流「博多松囃子」が「ゆへ」。感染拡大防止のため規模を縮小しながらも、祭り本来の楽しさを味わっても

福岡市中心部市民参加型の「博多どんたくまつり」が、4日開催される。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりとなる今年、オンライン配信は「博多どんたく」のサニタールは「伝統を継承」とんたくの源流「博多松囃子」が「ゆへ」。感染拡大防止のため規模を縮小しながらも、祭り本来の楽しさを味わっても

福岡市中心部市民参加型の「博多どんたくまつり」が、4日開催される。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりとなる今年、オンライン配信は「博多どんたく」のサニタールは「伝統を継承」とんたくの源流「博多松囃子」が「ゆへ」。感染拡大防止のため規模を縮小しながらも、祭り本来の楽しさを味わっても

福岡市中心部市民参加型の「博多どんたくまつり」が、4日開催される。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりとなる今年、オンライン配信は「博多どんたく」のサニタールは「伝統を継承」とんたくの源流「博多松囃子」が「ゆへ」。感染拡大防止のため規模を縮小しながらも、祭り本来の楽しさを味わっても



5月4日 読売新聞

声援代わりの拍手 活気 どんたくパレード

五月晴れに恵まれた3日の「博多どんたくまつり」。新型コロナウイルスによる2年連続の中止を経て、3年ぶりに復活した福岡市中心部でのパレードと演舞台では、出演者たちがマスク越しに笑顔を見せた。沿道からは時折、

五月晴れに恵まれた3日の「博多どんたくまつり」。新型コロナウイルスによる2年連続の中止を経て、3年ぶりに復活した福岡市中心部でのパレードと演舞台では、出演者たちがマスク越しに笑顔を見せた。沿道からは時折、

五月晴れに恵まれた3日の「博多どんたくまつり」。新型コロナウイルスによる2年連続の中止を経て、3年ぶりに復活した福岡市中心部でのパレードと演舞台では、出演者たちがマスク越しに笑顔を見せた。沿道からは時折、

※記事の二次利用にあたって、新聞社の要請により氏名等の個人情報を削除している場合がある。

5月4日 産経新聞



コロナ対策で時短も 博多どんたく3年ぶり熱気

ゴールデンウィーク後半初日の3日、福岡市で恒例の「博多どんたくまつり」が2日間の日程で始まった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、メイン行事のパレードは3年ぶりの開催。鮮やかな衣装をまとった大勢の市民が参加した。

主催団体によると、今年は感染防止対策として、パレードの参加団体数を減らしたほか、時間も2時間短縮。観客の密集を避けるためライブ配信も行っていた。

パレードは祭りの起源とされる福神、えびす、大黒が馬に乗って登場する「博多松囃子」でスタート。歩行者天国となった市内約1.3kmを市民が練り歩いた。沿道のスタッフは「マスクの着用」とプリントされたゼッケンを着て注意を呼びかけていた。

福岡市東区の無職、藤吉武信さん(81)は「中止の期間は寂しかった。3年ぶりなので懐かしい気持ちだ。規模は縮小したとしても来年以降も続いてほしい」と話した。

5月4日 読売新聞より抜粋



どんたく待ってた 3年ぶり「元気もらえる」

大団体の博多行軍「博多どんたくまつり」が、3日、福岡市で開幕した。新型コロナウイルスの影響で中止が続いた「博多どんたくまつり」が、3年ぶりに開催される。沿道からは時折、

大団体の博多行軍「博多どんたくまつり」が、3日、福岡市で開幕した。新型コロナウイルスの影響で中止が続いた「博多どんたくまつり」が、3年ぶりに開催される。沿道からは時折、

大団体の博多行軍「博多どんたくまつり」が、3日、福岡市で開幕した。新型コロナウイルスの影響で中止が続いた「博多どんたくまつり」が、3年ぶりに開催される。沿道からは時折、



3年ぶりに博多まつり開催中・開催予定の確し

4/28	5/15	博多まつり(佐賀県唐津市)
5/3	4	博多まつり(福岡市)
7/1	15	博多まつり(福岡市)
7/22	24	博多まつり(福岡市)



「博多どんたく港まつり」で、3年ぶりにパレードするどんたく隊（福岡市）

祭りの経済効果

地域に根づく祭りは、九州・沖縄でも大きな経済効果を生んでいる。今年には「博多どんたく港まつり」（福岡市）のパレードが規模は縮小したものの3年ぶりに実施されるなど、新型コロナウイルス禍からの回復の兆しも見えてきた。感染対策を万全にしながら集客をどう進めていくか、主催者には一層の工夫が求められている。

博多どんたく 249億円

ライブ配信活況 感染対策と熱気 両立

九州・沖縄の主な祭りの経済効果指数		
県	祭り	域内経済効果指数
福岡	博多どんたく港まつり	1.260
佐賀	伊萬里神社御神幸祭（伊万里トンテントン）	0.183
長崎	長崎くんち	1.144
熊本	火の国まつり	0.498
大分	大分七夕まつり	1.436
宮崎	延岡大師祭	0.416
鹿児島	奄美まつり	0.009
沖縄	沖縄全島エイサーまつり	0.334

（注）域内経済効果指数は、各県GDP（2018年度名目）に対する経済効果の比率をもとに指数化

され、色とりどりの衣装をまとった「どんたく隊」が練り歩いた。沿道での観覧自粛が呼びかけられたが、大勢の住民や観光客がカメラで撮影するなど、久しぶりのパレードを楽しんだ。

どんたくの起源は、祝詞をばやして町内を歩く800年以上前からの民俗行事「博多松囃子（まつばやし）」とされる。コロナ感染拡大前は例年200万人もの見物客を集め、福岡・博多を代表する祭りの一つとして知られていた。日本経済新

データで読む
地域再生

た九州・沖縄の祭りの中で2番目に高かった。J R九州の大型連休（4月28日～5月8日）中の利用状況は、九州新幹線や在来線特急の利用者が前年同期比90%増の約52万2000人だった。担当者は「新型コロナウイルスの制限がなく帰省などの需要が高まったほか、どんたくや有田陶器市などが開催されたのも要因のひとつだろう」とみる。

20年から2年連続で中止されていた熊本の夏の風物詩「火の国まつり」も、今年は8月上旬に開催することが決まった。今回の信金との調査によると経済効果は30億円に上るとされる。熊本市経済観光局は「市民からその開催してほしい」という声が寄せられている」と明かす。

1978年に始まった火の国まつりは、例年は約5000人が地元を代表的な民謡「おもやん」に合わせて市中心部を踊り歩く「おもやん総おどり」が特徴だ。今年も市が政令指定都市に移行して10年の記念の年という位置づけもある。

「スポンサー企業や警察などとの協議の時間まで、中止は非常に残念」と話す。長崎を代表する祭りでもあることから、中止が近隣地域の祭りの開催判断に影響を及ぼしかないとの懸念もある。調査を担当したたばな信用金庫（長崎原諒早市）の担当者は「今年こそは」と期待していた取引先も多く、落胆している人は少なくはない。消費マイ

と経済効果は約249億円あるとされる。県内のGDP（域内総生産）に対する経済効果の指数は1・260と、集計した九州・沖縄の祭りの中で2番目に高かった。

J R九州の大型連休（4月28日～5月8日）中の利用状況は、九州新幹線や在来線特急の利用者が前年同期比90%増の約52万2000人だった。担当者は「新型コロナウイルスの制限がなく帰省などの需要が高まったほか、どんたくや有田陶器市などが開催されたのも要因のひとつだろう」とみる。

20年から2年連続で中止されていた熊本の夏の風物詩「火の国まつり」も、今年は8月上旬に開催することが決まった。今回の信金との調査によると経済効果は30億円に上るとされる。熊本市経済観光局は「市民からその開催してほしい」という声が寄せられている」と明かす。

1978年に始まった火の国まつりは、例年は約5000人が地元を代表的な民謡「おもやん」に合わせて市中心部を踊り歩く「おもやん総おどり」が特徴だ。今年も市が政令指定都市に移行して10年の記念の年という位置づけもある。「スポンサー企業や警察などとの協議の時間まで、中止は非常に残念」と話す。長崎を代表する祭りでもあることから、中止が近隣地域の祭りの開催判断に影響を及ぼしかないとの懸念もある。調査を担当したたばな信用金庫（長崎原諒早市）の担当者は「今年こそは」と期待していた取引先も多く、落胆している人は少なくはない。消費マイ

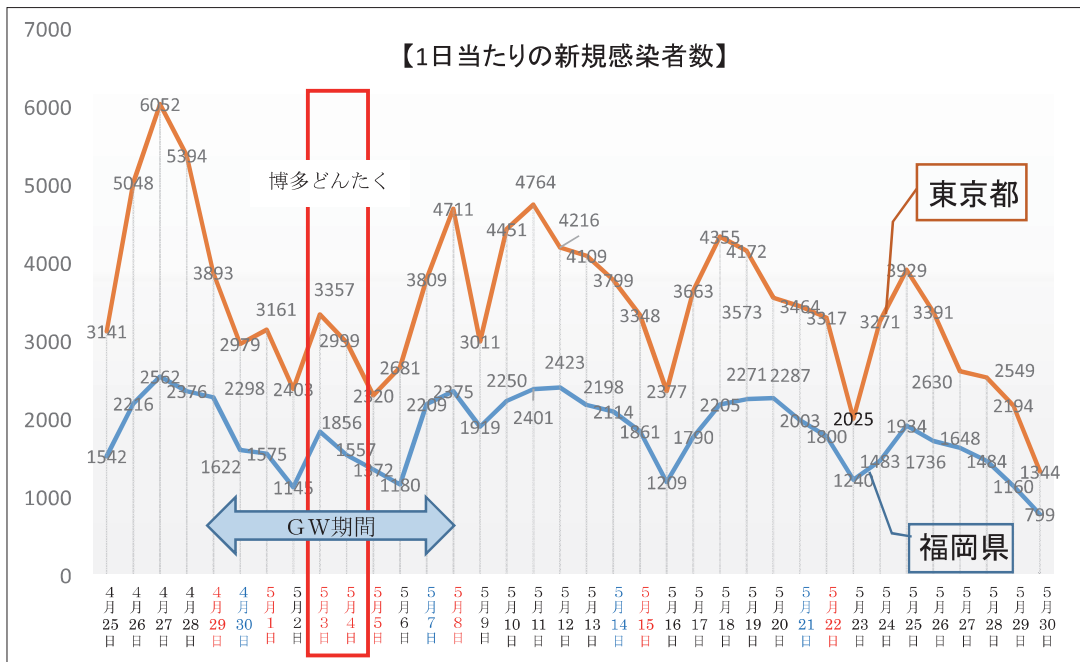
スマートフォンでQRコードを読み込むと、電子版「データで読む地域再生」を閲覧いただけます。

6. コロナの感染状況の推移

今年のゴールデンウィークは、3年ぶりにコロナ感染防止のための行動制限がない連休となり、全国各地で人出が前年を大幅に上回った。福岡市でも前年を上回るかなりの人出があったが、どんたくの開催が人出の増加に拍車をかけたことは否定できないであろう。

懸念されたのは連休後の感染拡大であるが、下図に示すように、さしたる感染者増は見られなかった（後述（4）参考）。これは、人々がマスク着用、手指消毒など基本的な感染対策をきちんと励行したことによるものと考えられる。

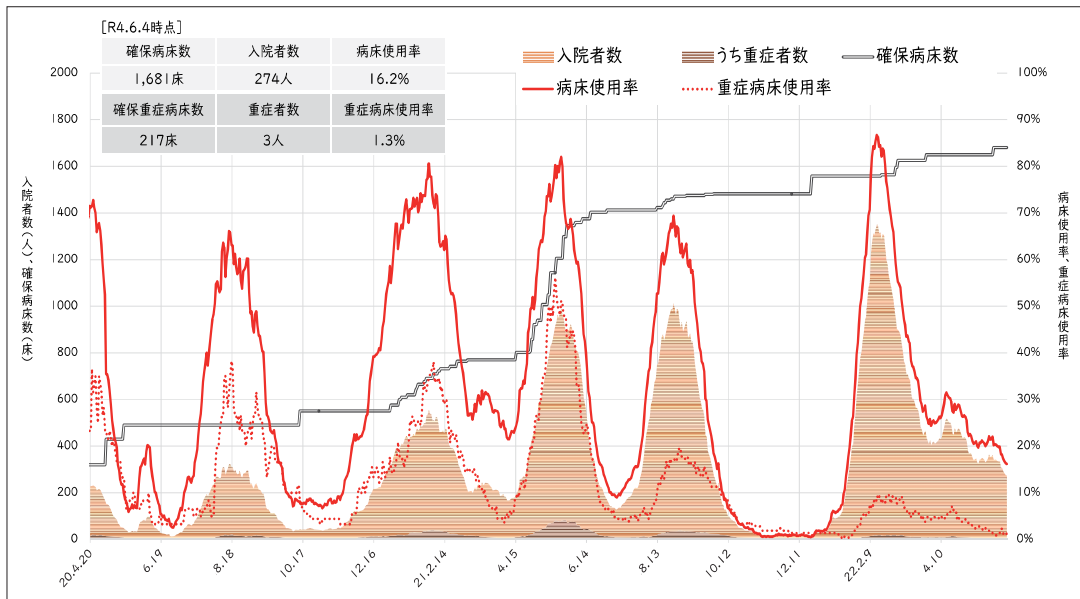
（1）福岡県のコロナ感染者数の推移



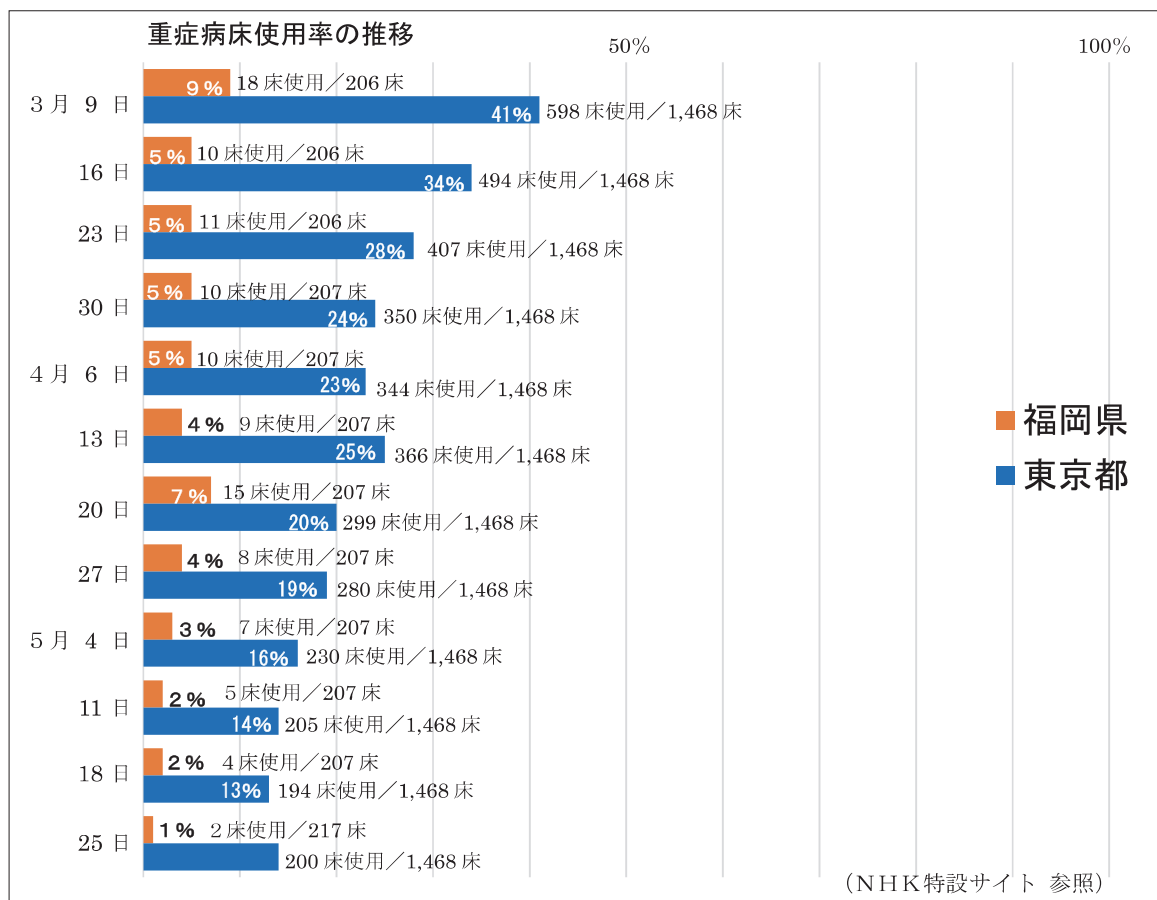
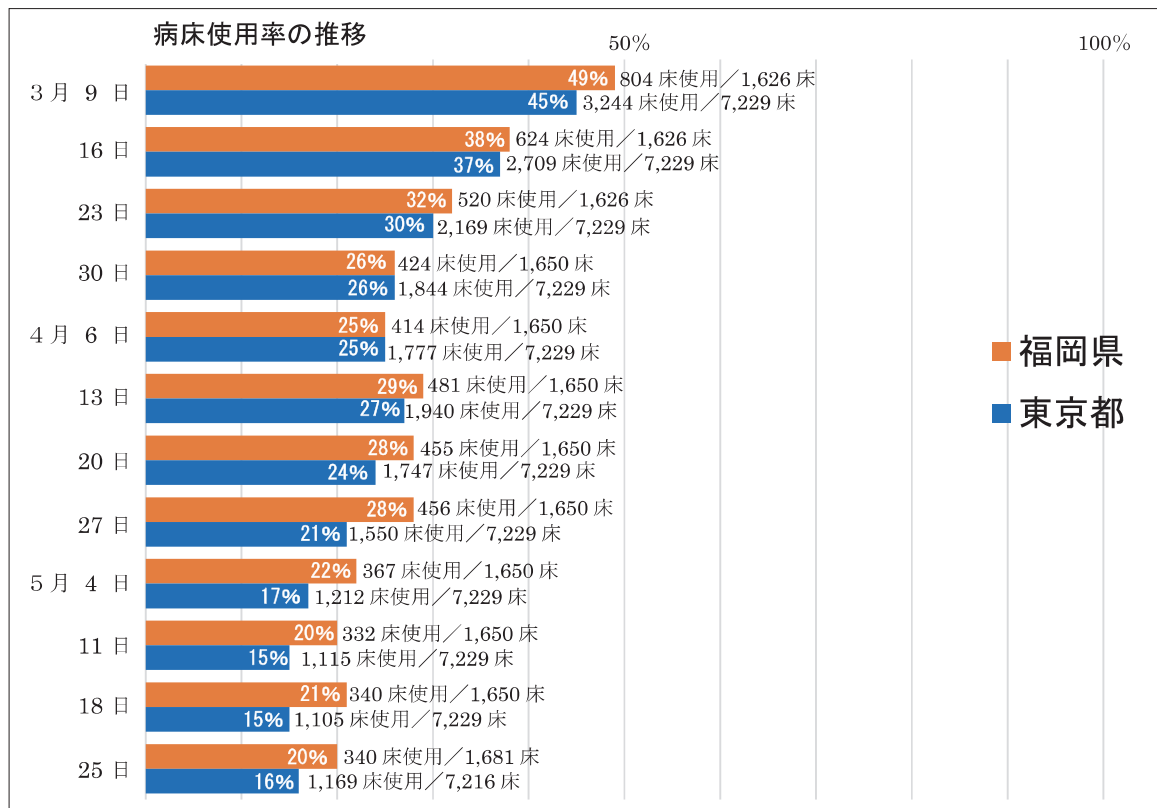
（注）5月30日の全国の新規感染者は12,207人

（2）福岡県の病床使用率と入院者数の推移

令和4年6月4日現在



(3) 福岡県と東京都の病床使用率比較



(4) コロナの感染状況に関する識者の声

■福岡県医師会の瀬戸裕司専務理事

「感染者数は予想ほど増えていないが、もう数日は状況を見る必要がある。」(5月18日 記者会見より)

■厚生労働省「アドバイザリーボード」の脇田隆字座長(国立感染症研究所長)

「今後の感染状況については、GWで人の動きが活発であったことや、BA.2系統へ概ね置き換わった状況などの感染の増加要因と、ワクチンの3回目接種等による抑制要因に影響されるものと考えられる。また、若い世代の感染者数増加が継続していることも踏まえ、引き続き、今後の動向を注視する必要。」(NIID国立感染症研究所ホームページ「新型コロナウイルス感染症の直近の感染状況等(2022年5月19日現在)」より)

■高島宗一郎福岡市長(振興会名誉会長)

「ワクチン接種が進んできたことや、それぞれが感染症対策をさせていただいたということから、これだけ人が動いたにも関わらず、大きな感染増につながっていないということかなと受け止めています。」(5月10日 記者会見より)

■服部誠太郎福岡県知事(振興会顧問)

「今の陽性者数等を見ると、懸念していたような連休明けの爆発的な感染再拡大は見られないと考えています。」(5月17日 記者会見より)



おわりに

コロナ禍のもと、3年ぶりの「博多どんたく港まつり」を成功裡に挙行できたのは、ひとえに福岡市役所をはじめ多くの関係者のご協力の賜物と心から感謝いたしております。また、振興会事務局の中核を担った福岡商工会議所の皆さんの労を心からねぎらいたと思います。

私どもにとっては、3年ぶりのどんたく開催を実に多くの方が諸手を上げて歓迎して下さったことが何よりの収穫であり褒美でした。今は、どんたくを無事にやり終えて、心の底からホッとしているところです。

ただ、過去2年間のブランクゆえに、祭りの運営に直接携わった経験者が減少していたこともあり、本番では祭りの運営に若干の齟齬が生じてしまいました。これから本来のどんたくの姿に戻していくに当たっては、今回の反省点を踏まえ、意思疎通の仕方の改善など様々な手だてを講じていく必要があるものと考えます。

全国各地の祭り主催者におかれましては、祭りの再開へ向けて何かとご苦労があるものと存じますが、こうした私どもの取り組みを、反省も込めて冊子にしてお届けしますので、これを参考にして、コロナ禍の中における祭りの運営を少しでも円滑なものにさせていただければ幸いに存じます。

私どもは、これからも各地の皆様とともに、地域発展のため、さらに前へ進んでまいりたいと存じますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



